

東京湾環境一斉調査 結果概要について



環境省は平成 29 年度における東京湾環境一斉調査の水質調査の結果について取りまとめました。

本調査は、東京湾に面した企業や国および、地方自治体等が協働し、水質調査(モニタリング)を実施することにより、国民・流域住民が東京湾再生に関心を持ってもらうことや、東京湾とその関係する河川等の水環境の把握等を目的としています。なお、平成 20 年度から毎年、赤潮、青潮及び貧酸素水塊が発生する夏季に、一斉に東京湾及び流域の河川等において水質調査等を実施していて、今年度で第 10 回目の実施となりました。

<概要>

1)調査日

平成 29 年 8 月 2 日(水)を基準日とし、基準日を含む数日間を中心に調査を実施

2)参加機関

国や大学(52 機関)、企業(74 機関)、その他(8 機関)等 計 134 機関

3)調査地点

水質調査地点:海域 604 地点、陸域(河川等)332 地点 計 936 地点

4)水質調査項目

【海域】水温、塩分、溶存酸素量(DO)、化学的酸素要求量(COD)、透明度

【陸域(河川等)】水温、化学的酸素要求量(COD)、流量、溶存酸素量(DO)、透視度

調査結果については、東京湾の湾奥一帯においては、底層(海底上 1m)の DO が低い状態(DO<4 mg/L)であり、特に羽田以北の西側沿岸から袖ヶ浦以北の東側沿岸の湾奥部にかけて、極めて低い状態(DO<2mg/L)が認められました。

また、陸域における調査では、東京湾沿岸及び江戸川流域の排水で COD 濃度が高い地点が多く確認されました。

当社では、河川水等の環境水分析に加え、多くの排水項目の分析についても長年の実績があり、短納期での対応が可能です。ご不明な点等ありましたら、是非一度ご相談ください。

資料 2017 年 10 月 6 日付 環境省報道発表資料

環境検査箇所 鶴谷佳代

